

## 令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

議案番号	議案の名称	審査結果	採決日
議案第152号	令和2年度宝塚市一般会計補正予算（第9号）	可決 （全員一致）	11月24日
議案第153号	令和2年度宝塚市特別会計国民健康保険事業費補正予算（第3号）	可決 （全員一致）	
議案第154号	令和2年度宝塚市特別会計国民健康保険診療施設費補正予算（第3号）	可決 （全員一致）	
議案第155号	令和2年度宝塚市特別会計介護保険事業費補正予算（第3号）	可決 （全員一致）	
議案第156号	令和2年度宝塚市特別会計後期高齢者医療事業費補正予算（第2号）	可決 （全員一致）	
議案第157号	令和2年度宝塚市特別会計川面財産区補正予算（第1号）	可決 （全員一致）	
議案第158号	令和2年度宝塚市特別会計鹿塩財産区補正予算（第1号）	可決 （全員一致）	
議案第160号	宝塚市市税条例の一部を改正する条例の制定について	可決 （全員一致）	

### 審査の状況

#### ① 令和2年11月24日（議案審査）

- ・出席委員 ◎大川 裕之      ○村松 あんな      梶川 みさお      北山 照昭  
くわはら健三郎      寺本 早苗      となき 正勝      藤岡 和枝

#### ② 令和2年12月15日（委員会報告書協議）

- ・出席委員 ◎大川 裕之      ○村松 あんな      梶川 みさお      北山 照昭  
くわはら健三郎      となき 正勝      藤岡 和枝
- ・欠席委員      寺本 早苗

（◎は委員長、○は副委員長）

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

**議案番号及び議案名**

議案第152号 令和2年度宝塚市一般会計補正予算（第9号）

**議案の概要**

補正後の令和2年度宝塚市一般会計の歳入歳出予算の総額

1,064億185万3千円（6億6,370万7千円の増額）

**歳出予算の主なもの**

**増額** バス交通対策事業、基金管理事業、社会保障・税番号制度個人番号カード交付事業、救急医療対策事業、病院事業会計補助金、公園維持管理事業

**減額** 執行額の確定に伴う執行残など

**歳入予算の主なもの**

**増額** 国庫支出金 個人番号カード交付事務費補助金

寄附金 一般寄附金

繰越金 前年度からの繰越金

市債 公園整備事業債

**減額** 繰入金 財政調整基金とりくずし

**繰越明許費補正**

**追加** 新庁舎・ひろば整備事業ほか6件

**債務負担行為補正**

**追加** コールセンター業務委託料ほか10件

**変更** 緑のリサイクル事業委託料

**地方債補正**

**追加** 人権文化センター施設整備事業債

**増額** 新庁舎・ひろば整備事業債、河川整備事業債、公園整備事業債

**減額** 児童福祉施設整備事業債、老人福祉施設整備事業債、市営住宅整備事業債

**論 点** なし

**<質疑の概要>**

問1 本市職員のマイナンバー取得率が令和2年9月末で37%と、県下の他市町と比べると低いが、年度内の目標取得率は。

答1 定期的に各部ごとに取得していない職員への周知徹底を図り、取得に努めている。令和3年度からは健康保険証をマイナンバーカードへ切替えを行う計画もあり、全職員の取得を目標に進めていく。

問2 令和元年度決算で都市計画税余剰金が発生し、その分が今回の補正予算で都市計画事業基金に積立てがされている。2年連続で都市計画税に余剰金が発生したがどう考えているのか。

答2 昨年は1億円、今年は1千万円ほどの余剰額が発生し、基金に積み立てた。これは本来の形ではなく、今後も続くようであれば税自体の考え方を変える必要もあり、課題である。今後は新ごみ処理施設整備事業を都市計画事業に位置づけ、都市計画税を充てようと考えており、現在県にその申請をしているところである。余剰額が出ないようにしたい。

問3 会計年度任用職員の報酬が2,852万円、手当が1,755万円、社会保険料が669万円の減額となっているが、この理由は。

答3 会計年度任用職員が4名減となったことが主な原因である。内訳は学校給食調理員が2名、消防本部が1名、文化政策課が1名である。学校給食調理員は日額雇用の会計年度任用職員（旧制度における臨時的任用職員）で2名補充した。その他、新型コロナウイルス感染症による事業の中止に伴う時間外勤務の減も理由である。

問4 新型コロナウイルス感染症に関する病院事業会計の赤字補填の考え方として、市としての支援である一般会計からの繰入れと、国が認めている制度で病院の借金である特別減収対策企業債があるが、今後はどちらで対応していくのか。

答4 明確に方向性が決まっているわけではなく、状況を見ながらの判断となる。市としても病院経営は厳しく、減収が続くことを想定しており、支援の検討はする必要がある。今後、病院側の経営健全化に向けた取組がどう進められるか確認しつつ、市の財政状況等をトータルで考えた上で、市立病院改革検討会や都市経営会議で議論をし、支援について考えていきたい。

問5 まいたに人権文化センターとひらい人権文化センターは保全計画を立てているのに、計画修繕が行われておらず、雨漏りはひどい状態であった。公共施設全般にどのような管理をしているのか。

答5 本来であれば基金を積み立て保全するのが理想だが、不具合が出てきた部分への対症療法が現状となっている。昨年までは、23億円と限られた実施計画財源の中で優先度を決め実施してきたが、公共施設の補修等が十分にできていない。来年度以降については現場の状態をよく見て、保全計画を参考にしつつ資金面も見ながら検討していく。

問6 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、放課後児童クラブの利用自粛要請を行い、各月ごとに期間中1日も利用がない人にはその月の料金を全額還付するが、自粛要請により利用回数が少なくなった人への対応は。

答6 月額精算である。日額精算も検討したが、民間の放課後児童クラブについてはそれぞれの事業者が育成料の収納をしており、各事業者と協議する中で日額精算は難しいとの判断になり、月額精算となった。この点については今後の課題であると認

識をしている。

問7 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各種イベントを中止した結果、6,274万円の残業代が減額となった。市の厳しい財政状況を考えると、これを機にイベントの見直しをするべきだが、令和3年度の予算に反映されているのか。

答7 令和3年度の予算編成を進めており、各部局のマネジメントの元に内容の精査を行った。現在、各部局の内容を財政当局が取りまとめており、全体を踏まえて経営戦略本部で議論をし、イベントを含めた事業の見直しについて判断していく。

問8 コロナ禍において市民の移動自粛が要請される中、継続的に運行した路線バス事業者に補助金が交付されるが、補助金の算出根拠は。

答8 新型コロナウイルス感染症の影響で、乗客数が減ったため、事業者としては休日ダイヤ並みに減便をしたいところであったが、減便すると密状態となるため、赤字を承知の上、平日ダイヤを維持してもらっていた。その分を支援するため、緊急事態宣言下の平日の日数を基に算出した。また感染防止策として運転席周りの透明シートや消毒液の購入に係る費用についても一部負担をする。

問9 中学校の修学旅行が中止になったことに伴い、企画料の支払いが生じたが、企画料の支払いがゼロの学校や、支払単価が各学校で差がある。この差が生じている理由は。

答9 修学旅行の企画会社の選定については学校ごとに行っている。中止となった際の対応について、契約書の中に企画料の扱いがある会社や、企画料がそもそも定められていない会社等、各社取扱いが異なっていたため差が生じている。今まで修学旅行が中止となることがなく、今回コロナ禍で初めて表面化してきたものであり、今後については何らかの対応を検討する必要があるとは考えている。

問10 企画料の差が修学旅行の内容に影響を与えていないか。

答10 各学校により修学旅行実施の時期が異なっていることもあり、一概に企画料の差により修学旅行の内容に影響があるものではないと考えている。

問11 市内事業者支援事業として、9月にPay Payを使いキャッシュレスポイント還元を行った。これはあらかじめ余剰を想定した予算措置であったようだが、2億円の予算に対して約5,400万円の余剰が発生したことは想定内なのか。

答11 事業者との事前シミュレーションの中では、本市の規模でそれなりの売上げを達成した場合の予算は1億円程度を想定していた。今回は消費のシャワー効果も期待し、宝塚阪急にも参加してもらうなどリスク要因もあったため、上振れを想定し2億円の予算措置とした。当初1億円を突破できればと考えていたため、今回の事

業については想定以上の効果があったと認識している。

問 1 2 阪神北広域こども急病センター運営継続支援金を 3 市 1 町で総額 1 億円支出するが、その積算根拠は。

答 1 2 新型コロナウイルスの影響を受け 4 月は受診者が前年比で 3 割を切るほど減少した。7 月は回復傾向にあり、4 割程となったため、下半期は 4 割から 5 割で推移すると見通しを立て、1 年間の収支不足に対応できる金額を 1 億円とした。

問 1 3 地域活動支援センター等受入体制強化等助成金及び日中一時支援事業受入体制強化等助成金の内容は。

答 1 3 対象施設でのコロナ感染防止対策費用に対して、1 か所 10 万円の助成金を出す。財源内訳は、国が 2 分の 1、県が 4 分の 1、市の方が 4 分の 1 である。市の 4 分の 1 には地方創生臨時交付金を充当する。

問 1 4 新ごみ処理施設建設について整備工事が想定より期間を要すると聞くが、どの程度延びるのか。既存施設は相当年数がたっており、さらに長寿命化のために点検をする必要があるのではないか。

答 1 4 当初予定の基本計画案の時から、地元説明等で約 2 年遅れている。また、多くの企業に入札に参加してもらい競争性を確保するための調整も含めて進めているため、炉については数か月程度の遅れで済むかと思うが、その後の解体工事に想定以上に時間がかかるため、全体事業はもう少し長くかかる予定をしている。

現有の炉をもたすためにどこにどう手を入れればよいかプラントメーカーと協議を進めている。

問 1 5 市立病院発熱外来について、毎日二、三人が PCR 検査の対象となっていると資料にあるが、実際の患者数、現在の状況及び今後の方向性は。

答 1 5 4、5 月の患者数は 10 名程度で、その後患者が減少したため、一旦、医師会からの応援を止めた。7 月からは、患者が 15 人を超える日が出て午前中だけで診療が終わらず午後 5 時頃までかかることもあり、医師会から応援医師の執務時間として想定していた午後 3 時までには終わらない状況が生じてきた。午前中は診療を行い、その後検査があり、それを受けて最終的な診断を行うのだが、午前と午後で担当の医師が変わるのは患者にとって不都合なので、1 人の医師が対応できる形で、発熱外来を継続しようと考えている。

問 1 6 特別定額給付金について 99.8%の方が受給したとのことだが、申請しなかった方の事情など確認しているのか。

答 1 6 制度を知らなかった方や海外にいたため期限内に申請できなかった方などが

いた。

問17 特別定額給付金事業を実施したが、課題などについて振り返りを行ったのか。

答17 当初、申請書の発送が遅いという意見が多くあったと認識している。結果的には、他市と比べても何ら劣らず、支給率については、個人は99.8%、世帯は99.6%など他市より上回っている点もあった。二重の給付などのミスもなく、市から申請書を送り、それを返信するという、できるだけシンプルな形で事務を確実に行うことができた。ただ、印刷や封入封緘やシステムの関係の委託事務については、全国で一斉に行う事務であり、事業者の確保については他市との競争となるため、早くから対処すべきであったと反省している。

自由討議	なし
------	----

討論	なし
----	----

審査結果	可決（全員一致）
------	----------

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b>
議案第153号 令和2年度宝塚市特別会計国民健康保険事業費補正予算（第3号）
<b>議案の概要</b>
補正後の令和2年度宝塚市特別会計国民健康保険事業費の歳入歳出予算の総額 225億7,622万1千円（4億5,560万3千円の増額）
<b>歳出予算の主なもの</b>
増額 基金管理事業 国民健康保険事業財政調整基金積立金 償還事業 県交付金等返還金
<b>歳入予算の主なもの</b>
増額 繰越金 前年度からの繰越金 減額 繰入金 職員給与費等繰入金
<b>論 点</b> なし
<b>&lt;質疑の概要&gt;</b> なし
<b>自由討議</b> なし
<b>討 論</b> なし
<b>審査結果</b> 可決（全員一致）

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b> 議案第154号 令和2年度宝塚市特別会計国民健康保険診療施設費補正予算（第3号）
<b>議案の概要</b> 補正後の令和2年度宝塚市特別会計国民健康保険診療施設費の歳入歳出予算の総額 1億761万円（7万9千円の減額） <b>歳出予算の主なもの</b> 減額 人件費 増額 施設管理事業 施設修繕料 <b>歳入予算の主なもの</b> 減額 繰入金一般会計からの繰入金 増額 県支出金 医療機関等感染拡大防止等支援事業補助金
<b>論 点</b> なし <b>&lt;質疑の概要&gt;</b> なし
<b>自由討議</b> なし
<b>討 論</b> なし
<b>審査結果</b> 可決（全員一致）



令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b>	
議案第155号 令和2年度宝塚市特別会計介護保険事業費補正予算（第3号）	
<b>議案の概要</b>	
補正後の令和2年度宝塚市特別会計介護保険事業費の歳入歳出予算の総額 233億7,573万1千円（4億27万3千円の増額）	
<b>歳出予算の主なもの</b>	
<b>増額</b>	一般管理事業 介護保険システム運用保守委託料 基金管理事業 介護給付費準備基金積立金
<b>歳入予算の主なもの</b>	
<b>増額</b>	国庫支出金 介護保険保険者努力支援交付金 繰越金 前年度からの繰越金
<b>減額</b>	繰入金 介護給付費準備基金とりくずし
<b>論 点</b> なし	
<b>&lt;質疑の概要&gt;</b>	
問1	国の制度改正に伴うシステム改修なのに、917万円が市の負担となっている。なぜ全額国の補助にならないのか。
答1	国はシステム改修の基準額を定めており、その基準額の2分の1を補助することとなっている。宝塚市の基準額の2分の1が410万4千円なので、それを上回る差額を足した金額を市が負担しなければいけない。
問2	国の制度が変わるたびに市の負担が生じるのはおかしいのではないか。国が全額出すべきだと要望すべきではないのか。
答2	国からの要請で市が行うものについて、10分の10の補助があっても、国全体の予算が足りない場合は補助金がそれを下回るケースもある。だが、基本的に制度改正を行う場合は、国に全額補助を求めたい。今後も国に必要な要望はしていきたい。
<b>自由討議</b>	なし
<b>討 論</b>	なし
<b>審査結果</b>	可決（全員一致）

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b>	
議案第156号 令和2年度宝塚市特別会計後期高齢者医療事業費補正予算（第2号）	
<b>議案の概要</b>	
補正後の令和2年度宝塚市特別会計後期高齢者医療事業費の歳入歳出予算の総額 45億7,713万2千円（1億3,384万4千円の増額）	
<b>歳出予算の主なもの</b>	
増額	後期高齢者医療広域連合納付金 保険料等負担金
減額	人件費
<b>歳入予算の主なもの</b>	
増額	繰越金 前年度からの繰越金
減額	繰入金 職員給与費等繰入金
論 点	なし
<質疑の概要>	
なし	
自由討議	なし
討 論	なし
審査結果	可決（全員一致）

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b>	
議案第157号 令和2年度宝塚市特別会計川面財産区補正予算（第1号）	
<b>議案の概要</b>	
補正後の令和2年度宝塚市特別会計川面財産区の歳入歳出予算の総額 1,501万3千円（1,200万円の増額）	
<b>歳出予算</b>	
増額 区有金繰出金	
<b>歳入予算</b>	
増額 諸収入 水利組合負担金	
<b>論 点</b>	なし
<b>&lt;質疑の概要&gt;</b>	
なし	
<b>自由討議</b>	なし
<b>討 論</b>	なし
<b>審査結果</b>	可決（全員一致）

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b>	
議案第158号 令和2年度宝塚市特別会計鹿塩財産区補正予算（第1号）	
<b>議案の概要</b>	
補正後の令和2年度宝塚市特別会計鹿塩財産区の歳入歳出予算の総額 3,311万3千円（増減なし）	
<b>歳出予算</b>	
<b>増額</b>	区有金繰出金
<b>減額</b>	弁天池浚渫工事費
<b>論 点</b>	なし
<b>&lt;質疑の概要&gt;</b>	
なし	
<b>自由討議</b>	なし
<b>討 論</b>	なし
<b>審査結果</b>	可決（全員一致）

令和2年第6回（12月）定例会 総務常任委員会報告書

<b>議案番号及び議案名</b>	議案第160号 宝塚市市税条例の一部を改正する条例の制定について
<b>議案の概要</b>	公益財団法人兵庫県健康財団が設置するひょうご新型コロナウイルス対策支援基金に対する寄附金について、寄附金税額控除を適用するため、条例の一部を改正しようとするもの。
<b>論 点</b>	なし
<b>&lt;質疑の概要&gt;</b>	なし
<b>自由討議</b>	なし
<b>討 論</b>	なし
<b>審査結果</b>	可決（全員一致）

